

平成28年度 第7回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：魅力ある県内企業への就職
- 2 日時：平成28年12月19日（月）16時～17時30分
- 3 場所：就実大学 学生会館内ゲストルーム
- 4 参加者：県内企業等に就職が内定した学生及び県内就職を考えている就職活動を控えた学生
- 5 知事挨拶

今日のテーマは「魅力ある県内企業への就職」で、就職活動を終えられた方、これから就職活動を始める方に、どういう経験をされてきたのか、県内での就職を目指した理由、就活をどのように進めてきたのか、また、インターンシップや実習の経験があればそれについても教えていただきたい。

6 意見交換

◆なぜ県内就職を選択したのか（考えているのか）

- ・留学生で、日本語で試験を受けることを心配していたが、製造業に内定した。自分は文系で特別な技術も持っていないので、得意の英語を生かすことができる企業を選んだ。内定企業は近年海外展開を進めており、また、家族も大事にできる企業なので決めた。
- ・県外でも就職活動したが、岡山県の企業が他県の企業と比較して劣っているということもないし、同じような企業が多くあった。長男であり、将来、自分で家族を支えたいという思いもあり、県内企業への就職を決めた。
- ・県外出身で、地元や隣県への就職も考えたが、岡山が一番住みやすいと感じ、岡山での就職に決めた。
- ・岡山で生まれ育ち、岡山を出る考えは最初から無かったが、災害が少なく晴れの日が多い、生活しやすい、また、医療看護系の学部であり、岡山は医療が発展していることから岡山での就職にした。
- ・インターンシップに参加した企業に内定したが、決め手は人だった。社員の皆さんが明るく、誇りを持って働いておられる姿が印象的だったのと、この社長の下でぜひ働きたいと強く感じたから。
- ・現在3年生で、これからの就活となるが、県内の桃の栽培が盛んな地域に住んでおり、農業を元気づけられたらと思い、県内就職を考えている。
- ・県内にずっと住んでいるが、やはり住みやすいと感じており県内での就職を考えている。また、自分が生まれ育った所で役に立てたらと思っている。
- ・自然と人情あふれる生まれ育った地元地域への愛情が強くなっており、自分を育ててくれた地域に感謝している。卒業後は地域の活性化に貢献したいと考えている。
- ・消防団に入っているが、過疎地域でもあり、今後は、自分が活躍しないとい

けないとも思っており、県内就職を考えている。

◆地元で就職活動をした感想

- ・岡山の企業は知られていない企業も多い。例えばウェブサイトでも、岡山に本社がある企業を自分で探すということをしないとでてこない。
- ・採用活動で留学生と日本人を別々にするのは少し違和感がある。岡山の企業で留学生を採用する企業は少ないのではないか。就活してみて、留学生を採用してみても良いかという感じであり、留学生は県外企業に就職してしまうのではないか。
- ・大阪で開催された大規模な合同企業説明会に参加したが、岡山の企業は1社しかなかった。県外に行った学生を岡山に戻す、県外から就職してもらうのであれば、県内企業がどんどん県外の企業説明会に参加することが必要だと感じた。
- ・経験のために東京の合同企業説明会にも行こうと思ったが、お金がかかる。岡山に帰るにはお金がかかるから帰らないと言う東京の友達もいる。東京だと金銭面で既に親に負担をかけているため、これ以上負担をかけたくないという思いから、岡山に帰って来ないという話しも聞く。岡山まで帰って来るのが、遠くて大変だからということもあると思う。
- ・県内の学生でも、合同企業説明会に参加するまでは、それほど岡山の企業のことを知らないと思う。
- ・県外から岡山に来た学生を出さないようにすることも大事。自分の出身県の隣県で開催された合同企業説明会にも参加したが、岡山の企業も多く参加しており、出身県と変わらないと感じた。
- ・岡山は医療が充実しており、医療や看護分野では岡山の人気は高いと感じた。
- ・県外出身だが、地元の合同企業説明会は少なかった。地元の企業情報があまり伝わってこなかった。
- ・親の助言で、子育てするなら何回も会社を休めるわけでもないし、親の助けがいると言われたが、自分もそう思う。

◆インターンシップや実習について

- ・夏休み期間に県内の金融機関にインターンシップに行ったが、Uターン就職したいという県内出身の県外学生もかなりいた。住みやすいという点からも、帰ってきたいと考える学生は意外と多いのではないか。
- ・企業研究を兼ねて、5日間インターンシップに行ったが、グループワークが実践的で、中身を良く知れて自分のためになった。
- ・体験してみないとわからないことが多いので、他業種へのインターンシップもエントリーしている。また、企業側としても、参加した学生のことが分かるので役に立つのではないか。

- ・ずっと県内にいる学生は、県内企業のことも少しはわかるが、県外から県内大学に進学している学生には、県内企業のことがわからないと思うので、企業情報を発信することが必要だ。
- ・職場体験型で10日間程度インターンシップに行ったが、学生と社会人の違いを思い知らされた。時間にもシビアだったが、最も大きかったのは責任感の違いだ。学生の場合はフィードバックが自分自身だけであるが、社会人は会社や世間に迷惑をかけられないため、責任感が強いことを学んだ。
- ・2社経験したが、取り組んでいる事業と働く社員の社風を知ることができ、比較することができた。自分に合った会社選びができたことや働くイメージができて企業選択に役立ったことが大きかったし、企業に自分自身を知ってもらうことができた。
- ・4ヶ月間インターンシップに行ったことで、人とのつながりができて、それを今でも生かすことができていることが大きい。

◆どんな発信方法が良いか

- ・県南での企業説明会が多いが、県北は少ない。県北での開催を増やすべき。
- ・ネット環境での面接を経験したことがあるが、自宅で落ち着いて面接できるので良かった。東京でのサマーキャリアフォーラムにも参加したが、岡山の企業は参加していなかった。サマーキャリアフォーラムは2日間で内定まで至ることもある。例えば、そうした場で出会った企業の方と、次の面接の段階ではネット面接ができるようになれば移動費用がかからないので助かると思う。
- ・企業説明会でも、岡山の企業が東京に行かなくてもネット上で説明できる機会ができたら良いのではないかな。また、学生も自分の時間に合わせて活動でき、説明会のためにだけ遠方に行くこともなくなるのではないかな。

◆岡山の企業、ここを頑張れば良いのでは、ここを工夫していた

- ・やはり情報発信が一番大事で、知ってもらうことが必要。
- ・合同企業説明会は、岡山市内などでよく開催されているが、県外学生が帰ってくるのは難しいと思う。大阪など県外で岡山の企業が多く参加する合同企業説明会を開催する方が良いと思うし、興味を持ってくれる人も増えるのではないかな。
- ・合同企業説明会は企業を知る良いきっかけであるが、説明会の前に企業を知る情報が必要だ。業種や会社名で決めてしまう傾向がある。例えば、ITというと企業活動も活発だろうから企業の説明を聞いてみようかとなる。2年生の時にインターンシップした被服製造企業は、歴史のある会社だが、あまりアクティブなイメージは持っていなかった。しかし、行ってみると、生き残っていくためにはどうすれば良いのかをみんなで考えているアクティ

ブな企業だった。そういったことを合同企業説明会の前に知れるような機会があれば良いのではないか。

- ・企業説明会で30分程度話を聞いただけでは本当の情報が入ってこないと思う。インターンシップに行くことで説明会では手に入らない情報や体験ができる。長く働いてもらいたいという企業側の思いも伝えることができるのではないか。
- ・看護では、3年生の後半に実習があるが、実習先の病院というのが重要になってくる。実習先の病院や附属病院があるとそこに行くことになり、他の病院を知ることはあまりないのではないか。
- ・業種を絞った合同説明会があれば良いのではないか。文系理系別は良くあるが、業種毎というのは少ない。
- ・企業説明会の前に入手する情報として、通常の学内企業説明会とは別に、総括的な県内企業情報の説明に大学に来てもらったら助かるのではないか。
- ・自分の大学は、総括的な企業情報説明会があり、参加したが、大学内から外に出ていく自らの努力も大事だ。両方あれば良いかもしれない。
- ・ITや製造業でも、いろいろな職種の採用があることをPRした方が良い。

◆その他

- ・社内に保育施設を設置する企業もあるし、出産後の復職がしやすい企業もあると聞く。女性が働きやすいということが、会社を選ぶ際のポイントにもなるのではないか。
- ・内定企業が第二志望の企業だった場合で、第一志望企業の最終面接前に承諾書を提出させる場合がある。企業側の立場も理解できるが、もう少し柔軟な対応をしてほしい。
- ・少子高齢化が進んでいる状況の中で、子どもを産める環境が大事。産むのにも育てるにもお金がかかる。少子化を解消していくには子どもを3人は産まないといけませんが、育てるのはたいへん。仕事も休む必要があり、会社側も社員も気を遣うことになり、どうしたものかと考えてしまう。子育てできる会社にしてほしい。
- ・給与がどうなっているか、収入がどれくらいあればどんな生活ができるのかがぴんとこない。東京と岡山では生活に必要なお金も違う。そういった情報があまりない。
- ・将来、出産して、会社を辞めたとしても、再就職ができるかどうか不安がある。そうした観点で就職先を決めることも必要だと思う。
- ・少子高齢化が進むと高齢者医療費の増加につながる。高齢者の健康管理の促進や高齢者医療費抑制のためにも、県で採用する管理栄養士の人数を増やしてほしい。

7 知事まとめ

人生設計を立てておくことはとても大事なことであり、自分のライフプランをきちんと受け入れくれる企業を選ぶことが大事。企業側は、きちんと学生に情報が伝わるようにしないといけない。せっかく良い取組をしても、それが知られずに選ばれると有名な企業だけが得をする。伝わらないことでミスマッチがおきてしまう。